

網走市の土地利用変化による自然損失状況の分析

【目次】

第 1 章 問題意識と研究目的	第 4 章 要約と結論
第 2 章 都市開発に伴う自然損失	参考文献
第 3 章 網走市における土地利用変化の分析	謝辞
第 1 節 分析方法	
第 2 節 分析対象地域の概要	
第 3 節 分析結果	

【目的】

第 2 次世界大戦以降、日本では道路やダム、発電所などの建設、宅地造成、港湾開発などにより、人が生活する場としてより快適で豊かな都市形成が行われてきた。しかし、それに伴い貴重な自然が失われたことも事実である。網走市でも商業地域や住宅団地の開発など、急激な都市開発がみられた。

本論文では、網走市の都市化の著しい商業・住宅地域と、都市化の見られない農村地域の土地利用変化を 2 時点間で比較することで、それぞれの地域ごとに都市開発による自然損失の状況分析する。その結果、網走市は森林伐採による都市開発は行われず、農地を住宅地に転換することで都市開発を進めてきたことを明らかにすること。

【方法】

昭和 54 年と平成 7 年の 2 時点の航空写真を用い、宅地、農地、森林、その他に土地利用区分をする。分類した土地利用区分ごとにピクセル数をカウントし、年代ごとに土地利用区分の割合を算出し、土地利用の特徴を明らかにした。

【結論】

分析した結果、以下の 2 つの傾向がわかった。

- 1) 農地は、昭和 54 年と平成 7 年を比較したとき、商業地域、住宅地域、森林地域すべての地域で農地面積は減少したことが明らかになった。また、各地域の土地面積に占める農地割合も減少したことがわかった。
- 2) 森林は、昭和 54 年と平成 7 年を比較したとき、商業地域、住宅地域、森林地域すべての地域で森林面積が増加したことが明らかになった。また、各地域の土地面積に占める森林割合も増加したことがわかった。

以上のことから、網走市においては、森林伐採は分析対象とした商業地域、住宅地域、森林地域ともに行われておらず、農地を宅地、森林、その他のいずれかに転換ことによって都市開発が行われてきたことが明らかになった。したがって網走市の都市開発による自然損失は、農地の減少のみにとどまっていたと評価することができる。

【参考文献】

唐崎卓也・深山一弥・安中誠司『農村景観の変化の分析手法に関する基礎的研究』農村計画論文集 Vol.1(1999) pp. 61-66.